

安 威 川 ダ ム

第 6 5 回 岩盤判定会議 別冊資料

<地盤検査>

非常用洪水吐き 流入部：非 No. -3+19.5～非 No. -4+15

ロック敷き 左岸下流部：No. 15+15～No. 16+5、DC+65～DC+121

令和元年 5 月 9 日

大阪府 安威川ダム建設事務所

安威川ダム 岩盤判定会議（第65回）別冊資料

目 次

岩盤判定会議について 1

1. 岩盤判定会議での主な確認事項 2

 1.1 コア・フィルター敷、監査廊コンクリート敷 2

 1.2 ロック敷 5

 1.3 非常用洪水吐シュート敷 7

 1.4 常用洪水吐き（流入部, 吐口部）、
 非常用洪水吐き（シュート部以外） 8

2. ダム諸元 10

3. 岩盤分類基準 19

4. 各岩級区分における設計強度 30

5. 安威川ダムの非常用洪水吐流入部の設計概要 31

岩盤判定会議について

○岩盤判定の進め方

ダムの基礎岩盤の決定は、ダムの堤体を支える強度と止水性が要求される重要な事項である。しかし、基礎岩盤は地質、岩級、止水性、断層の分布などダムごとに異なるため、決定にあたっては様々な経験や事例を踏まえ慎重に進めなければならない。

安威川ダムでは、岩盤判定会議を開催し、粗掘削時の岩盤確認、仕上げ掘削時の岩盤確認・地盤検査を行い、基礎掘削面を決定する。

① 構成メンバー

構成メンバーは以下のとおりとする。

大阪府河川室

安威川ダム建設事務所

大林組 JV（施工者）

水資源機構（施工監理業務）

ニュージェック（岩盤面観察・解析業務）

ダム技術センター（施工結果の評価）

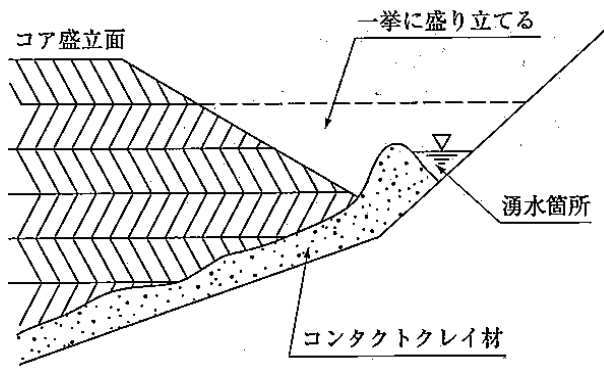
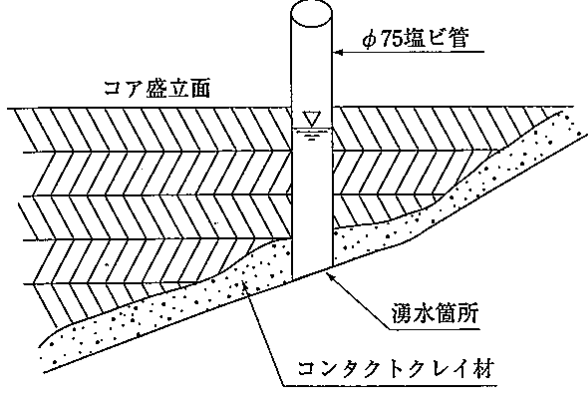
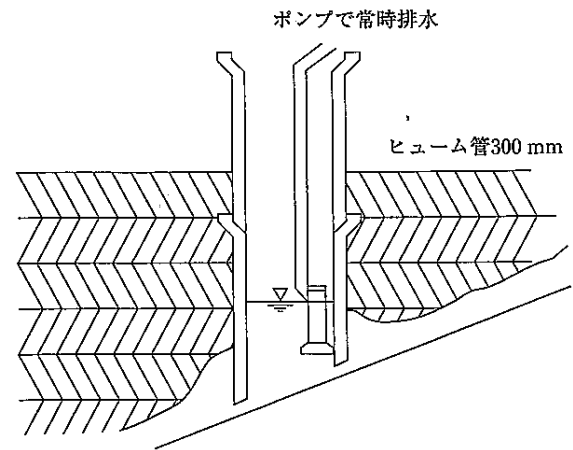
1. 岩盤判定会議での主な確認事項

1.1 コア敷、監査廊コンクリート敷

表-1 岩盤判定会議での主な確認事項（コア敷、監査廊コンクリート敷）

項目			評価方法	粗掘削時の対応	仕上げ掘削時の対応	備考
地質			地質が適切に記録されているか	—	—	
岩級			岩盤分類基準に従い岩級が的確に記録されているか	—	—	
地盤留意箇所の有無	断層	有・無	断層の状況が正確に記録されているか、	【コア敷】 <u>○D 級岩盤・断層幅</u> ～5cm 程度：新鮮な面を出し、丁寧な着岩処理を行う。 5cm～50cm 程度：デンタルワークにより、丁寧な着岩処理を行う。 50cm～200cm 程度：置換えコンクリートおよび弱部補強グラウチング 200cm 以上：別途 FEM 解析等により規模を決定する 注）弱部補強グラウチングはブランケットグラウチング改良範囲を対象		

表-3 湧水処理（案）

湧水量	染み出し程度	1L/min 程度	1L/min 以上（左記対応が困難な場合）
施工 概要図	コンタクトクレイ材で遮水する 	塩ビ管を設置し孔内水位と湧水をバランスさせる 	ヒューム管を設置し常時ポンプ排水する 
概要	ヘアクラックなどから浸出してくる程度の湧水量の場合は、湧水箇所の周辺をコンタクトクレイ材や遮水材料で囲み、		

1.3 非常用洪水吐シュート敷

表-5 岩盤判定会議での主な確認事項（非常用洪水吐きシュート敷）

項目			評価方法	対応	備考
地質			地質が適切に記録されているか	—	
岩級			岩盤分類基準に従い岩級が的確に記録されているか	—	
地盤留意箇所の有無	断層	有・無	断層の状況が正確に記録されているか、	<u>○D 級岩盤</u> D 級岩盤が分布する場合には掘削除去を基本とし、掘削除去できない場合には置換コンクリート等の丁寧な着岩処理を行う。	
	変質・劣化部	有・無	変質部の状況が正確に記録されているか		
				<u>○断層</u> ・横断方向に断層が分布する場合 縦断方向にキー形状となるよう断層部をVカットする。 ・縦断方向に断層が分布する場合 無処理を基本とする。 ただし、躯体	

1.4 常用洪水吐き(流入部, 吐口部)、非常用洪水吐き(シュート部以外)

表-5 岩盤判定会議での主な確認事項（常用洪水吐き(流入部, 吐口部)、非常用洪水吐き(シュート部以外)）

項目			評価方法	対応	備考
地質			地質が適切に記録されているか	—	
岩級			岩盤分類基準に従い岩級が的確に記録されているか	—	
地盤留意箇所の有無	断層	有・無	断層の状況が正確に記録されているか、	<u>○風化によるD級岩盤</u> 基礎岩盤はCL1級岩盤以上を基本としているため、D級岩盤は掘削除去を行い、置換コンクリートによる対応を基本とする。	
	変質・劣化部	有・無	変質部の状況が正確に記録されているか		
				<u>○断層（上記掘削除去が困難な場合）</u> ・規模が小さく（目安値 1m 程度未満）、堤体安定性に問題が生じるような	

